

# 普及指導員調査研究報告書

課題名：‘かおり野’の育苗省力化技術の実証

周南農林事務所農業部 担当者氏名： 熊谷 恵 ・ 朝山 哲也

## 1 普及活動の課題・目標

一般的にいちごの育苗は切り離し後2~3ヶ月程度かかり、労力・コスト面で生産者の大きな負担となっている。また、夏秋なす等との組み合わせで経営を行う場合は作業競合も生じ、健全な苗育成の弊害となりやすい。

そこで‘かおり野’の特性を活かした省力育苗技術を実証し、いちご経営の規模拡大や新規就農者が取り組みやすい新たな育苗技術確立のための資とする。

## 2 普及活動の内容

### (1) 耕種概要

1) 設置場所 周南市樋口（大中千鶴江氏圃場）

2) 育苗管理

鉢受・施肥：下記（2）試験方法 参照

灌 水：慣行区は頭上灌水、試験区は鉢土が乾いた際に頭上灌水

遮 光：無

3) 本圃管理

定植日：下記（2）試験方法 参照

栽培方式：高設栽培（田布施式高設・ベンチ幅60cm×4列、2条、株間20cm）

遮光資材：らーくらくスーパーホワイト（遮光率60~65%・日本ワイドクロス(株)）

遮光期間：9月1日（定植前）~10月3日

電 照：4.0時間（11月27日~12月2日）、3.0時間（12月3日~1月31日）  
1.5時間（2月1日~）

温 度：加温機による暖房（最低気温8℃）

着果管理：9月末までに収穫した果房は除去、10月以降に収穫した果房の摘果は無し。

### (2) 試験方法

1) 区制、面積

180 m<sup>2</sup>（6m×30m）、1区50株 反復無し

ベンチ4列のうち内側2列を試験区として設置した。

2) 試験区の構成

	鉢受日数	鉢受日	切離し日	定植日	育苗期間	ポット	育苗中施肥
慣行区	約15日	7/15~ ~8/下	8/中~ 8/下	9/15	約30日	9cm	オクダーク40
試験区	1区	26日	8/10	9/5	0日	6cm	無
	2区	36日	8/10	9/15			
	3区	16日	8/20	9/5			
	4区	26日	8/20	9/15			

### 3 普及活動の成果

#### (1) 調査結果

芯止まり率は、慣行区で厳寒期に2%発生したが、それ以外での発生は無かった(表1)。

慣行区は、頂果房の開花始めと収穫始めが5調査区中で最も遅かった。頂果房の開花日は78%が11月2日～11月7日となり、比較的ばらつきは少なかった(表2・表3)。第一腋果房の開花始めは最も早かったが、34%が12月12日以降に開花し、ばらつく傾向だった(表2・表4)。

試験1区は、頂果房の開花始めと収穫始めは最も早かったが、64%が10月29日以降の開花となり、ばらつく傾向だった(表2・表3)。第一腋花房の開花始めは遅めで、46%が12月12日以降の開花だった(表2・表4)。

試験2区は、頂果房の開花始めと収穫始めがやや早く、開花日の46%が10月27日となった(表2・表3)。第一腋花房の開花始めはやや遅めで、48%が12月3日～12月6日となり、30%が12月12日以降であった(表3・表4)。

試験3区は、頂果房の開花始めは試験区の中では最も遅く収穫始めやや遅かった。開花日は68%が11月4日～11月7日となったが、ややばらつきが見られた(表2・表3)。第一腋花房の開花始めは遅めで、62%が12月12日以降となった(表4)。

試験4区は、頂果房の開花始めおよび収穫始めはやや遅いが、76%が10月30日～11月2日となった(表2・表3)。第一腋果房の開花始めは遅めで、54%が12月12日以降となった(表4)。

表1 芯止まり率 単位：%

調査時期	調査日	慣行区	1区	2区	3区	4区
頂果房開花期	10月28日	0	0	0	0	0
厳寒期	2月17日	2	0	0	0	0

\*調査株数：50

表3 頂果房の開花日分布 単位：個

開花日	慣行区	1区	2区	3区	4区
10月15日	0	1	0	0	0
10月17日	0	11	1	0	0
10月19日	0	4	0	0	0
10月22日	0	0	3	0	0
10月24日	0	0	4	0	0
10月27日	0	2	23	1	1
10月28日	0	0	0	1	3
10月29日	0			0	4
10月30日	4			2	19
11月2日	18	32	19	4	19
11月4日	21			18	4
11月7日	7			15	0
11月8日～	0			9	0
計	50	50	50	50	50

\*各区計50花の開花日

表2 開花始期等

区名	頂果房		第一腋果房
	開花始め	収穫始め	開花始め
慣行区	11月2日	12月10日	11月26日
試験区	1区	10月17日	11月14日
	2区	10月24日	11月17日
	3区	11月2日	11月28日
	4区	10月29日	12月1日

\*全体の10%以上開花した日を開花日とした

表4 第一腋果房の開花日分布 単位：個

開花日	慣行区	1区	2区	3区	4区
11月21日	1	0	0	0	0
11月22日	2	0	0	0	0
11月23日	0	1	1	0	0
11月26日	13	1	3	1	1
11月27日	1	0	1	0	0
11月29日	2	6	3	4	1
12月3日	5	5	10	3	2
12月6日	3	7	14	1	6
12月11日	6	7	3	10	13
12月12日～	17	23	15	31	27
計	50	50	50	50	50

\*各区計50花の開花日

## (2) 考察

試験2区（鉢受日数36日・9月15日定植）は、慣行区と比べ収穫始めが23日早く、開花揃いも良い。第一腋果房の開花はやや遅れるが、試験区内では最も早い。厳寒期に芯止まりの発生も見られないことから、慣行区と同等以上に早期収穫かつ低コスト生産を可能とする苗として取り扱える可能性が高い。

また、試験4区（鉢受日数26日・9月15日定植）は、慣行区と比べ収穫始めが9日早く、第一腋果房の開花は10日遅くなるが揃いは良いため、慣行区および試験2区と作期分散による省力苗として取り扱える可能性が高い。

試験1区および3区は、前述の区に比べると開花期のばらつき等が目立った。1区は定植日が慣行栽培より早いこと、3区は鉢受期間が短いことが原因の一つになったと考えられる。

## 4 今後の普及活動に向けて

省エネ省力のいちご品種として県内で栽培が広がりつつある‘かおり野’であるが、さらなる省力低コスト化を可能とする結果を得ることができた。

また、本試験は農林総合技術センターとの共同研究で進めた。同センターでの収量調査等の結果を踏まえ、新規就農者だけでなく、既存生産者の‘かおり野’栽培規模拡大のための大きな手段として積極的に推進していきたい。

## 【参考】



9月18日・1区



9月18日・2区



9月18日・3区



9月18日・4区



9月18日・慣行区



11月17日・1区



11月17日・2区



11月17日・3区



11月17日・4区



11月17日・慣行区